

《入選》

ネットの怖さや聴覚障害者について

彦根総合高等学校 1年

友野 ともの しんや 慎哉 さん

私は、人権や差別について色々と考えてみました。今はネットが当たり前の時代です。SNSでは、沢山の方が色々な内容をアップしてきますが、その内容を見てアンチコメントを見ることもあります。どうして誹謗中傷や否定的な内容のコメントをするのでしょうか。見ず知らずの人にアンチコメントをし、それを見て傷つく人も沢山います。ひどい場合は追いかまれて自殺をしてしまうほどSNSの存在は怖いのです。テレビで「3年A組・今から皆さんは、人質です」というSNSに対しての怖

さや大切さを教えるドラマがありました。それを毎週見ている、いじめにも色々ないじめ方があり、それに対して死に追いつめられ本当に怖いと思います。どこにでもあり得ることだと思います。自分自身、いじめられる立場やいじめめる立場にならないように、ネット関係は気を付けたいと思いました。その他に、聴覚障害者について親に聞いてみました。両親の会社には、何人か聴覚障害者の人が一緒に働いています。私が小学校の頃に両親の会社に何度か工場見学に行ったことがあります。その時に、耳が聞こえにくい人と一緒に写真を撮ったことがあります。すごく笑顔で接してくれます。僕の両親は手話はできません。どう対応してるのか聞いてみると口を大きくひらいて話したり、筆談したりしているみたいです。会話をする

と少しずつ手話も覚えていくみたいです。母親が何冊か手話の本を買っており家にあるのを見ました。しかし今はコロナでマスク着用で外せないこともあり、口の動きがわからないのでなかなか大変みたいです。苦労している点を聞いてみました。やはり、耳が聞こえる人と聞かない人とは、色々努力をしてもなかなか伝えることはむずかしいみたいです。今はスマホでもアプリがあるのでアプリも活用しながら対応をしているみたいです。私自身、聴覚障害者の人が周りにいないので、実際にそういう場面になるとどういう対応をするのか想像ができませんが、障害者という扱いはするのではなく、今回、母からの色々な対応ができることを学んだので健常者と同じように対応し、その人が不便なく対応できる方法を

考えていかなければいけないと思います。